

進行管理検証シートの見方

基本計画の分野

①まちづくりの目標 <大分野>

第5次総合計画の基本構想に示された将来都市像を実現するために定めた5項目のまちづくりの目標。

②施策の大綱 <中分野>

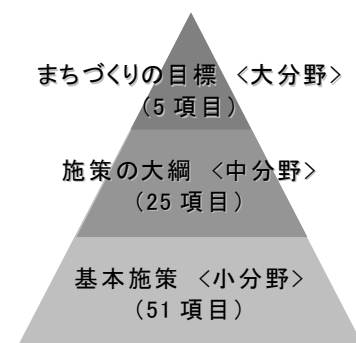
基本構想に掲げるまちづくりの目標を実現するために、より具体化した施策の大綱となるもので、25項目からなる。

③基本施策 <小分野>

各施策の大綱を構成する最も基本的な単位となる51の施策。

④4年後のまち

各基本施策において、総合計画に掲げるまちづくりの目標を達成するための、市民や事業者、行政が共に目指す将来の暮らしや、まちの姿、行動を示したもの。



1 市民実感度

⑤設問

基本計画で定める「4年後のまち」について、市民の実感としてまち全体がどの程度実現しているかをアンケートで問うている。

⑥得点評価

各小分野に掲げた「4年後のまち」に対するそれぞれの市民実感度を数値化したものと、それらの平均点を算出し、分野全体の実感度を数値化したものを明記している。

《実感度の算定方法》

市民実感度は、小分野ごとに市民にアンケートを行い、それぞれ記載している問いに対して「そう思う」、「どちらかというと思う」、「どちらとも言えない」、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」及び「わからない」から1つ選ぶ方法で調査を実施し、これを点数化している。

なお、アンケートは101の設問を3組に分け、各々1,000人の方にアンケート調査を実施（平成29年5月）。

以下に点数化の方法を示す。

ア 総回答数のうち、「わからない」と「無回答」を除き、これを有効回答数とする。

イ 各回答の割合について「そう思う」に100点、「どちらかというと思う」に75

点、「どちらとも言えない」に50点、「どちらかというと思わない」に25点、「
「と思わない」に0点を乗じ、それらの合計を施策（小分野）の合計点とする。

《算出例》

そう思う	どちらかという と思う	どちらとも 言えない	どちらかという と思わない	と思わない	わからない	無回答	有効回 答数
2.5%	12.2%	31.0%	12.8%	41.5%	—	—	100.0%

$$2.5\% \times 100 \text{ 点} + 12.2\% \times 75 \text{ 点} + 31.0\% \times 50 \text{ 点} + 12.8\% \times 25 \text{ 点} + 41.5\% \times 0 \text{ 点} \\ = 30.35 \text{ 点} \approx 30.4 \text{ 点}$$

例では、この「4年後のまち」の実感度は「30.4点」となる。

2 指標

⑦指標名

各小分野の「4年後のまち」の実現に向けて、その達成度合いを測る「ものさし」として、客観的に数値化可能な指標として、その分野で代表的なものを設定している。この分野の状態を示す客観的な指標である。指標名の後の（ ）内には単位を示している。4年後のまちの現状を適切に把握できるように、分野によっては複数の指標を設定している。

⑧この指標について

指標が具体的に表している数値や用語を説明している。また、なぜその施策の評価に用いるのかが分かるよう、指標が示す意味や指標の算出方法についても説明している。

⑨指標の動向

[推移のグラフ]

平成21年度から直近値までと、平成30年度までの達成すべき目指す値と実績値を記載している。

[目指す値]

目指す値は、市民、事業者、行政等が共に取り組むことで達成する値で、各年度の目標とする数値を示している。

[実績値]

直近の実績値（基本的には平成28年度末の数値）を記載している。

※ 評価時点で数値が確定していない指標、数値の把握が毎年できない指標などについては、直近値が昨年度もしくは未記載となっている場合がある。

⑩指標の把握方法（数値の出所）

進行管理していく上で数値の出所について明記。

⑪目標が未達成かつ前年度より悪化している場合の理由

直近値が当該年度の目標値にまで達していない場合で、かつ前年度よりも数値が悪化している場合は、未達成の原因分析を行い、その理由を明記している。外的要因があった場合はその有無を記載。

3 市民の役割分担（市民1人でできること）**⑫設問**

基本計画に掲げる市民の役割分担状況のうち1つを抽出し、市民満足度調査で市民がどの程度取り組んでいるかを尋ねたもの。左の番号は、基本計画の「市民1人でできること」の項目番号。

⑬得点評価

市民満足度調査の回答結果を集計し、得点化したもの。「十分取り組んでいる」を100点、「取り組んでいる」を75点、「少し取り組んでいる」を50点、「あまり取り組んでいない」を25点、「全く取り組んでいない」を0点として、回答割合に乗じて、得点している。

4 行政の4年間の主な取組**⑭取組No.・行政の4年間の主な取組・具体的な事業**

基本計画の「行政の4年間の主な取組」に掲げる項目の取組No.と取組名、取組に応じた具体的な事業の名称。

⑮取組状況

具体的な事業についての当該年度の取組状況。

⑯進捗上の課題

取組を進める上で課題となっていることがある場合にその課題を明記。

5 分野全体の進捗状況**⑰各項目の進捗度**

市民実感度については得点評価の平均点、市民等の役割分担については得点評価を、指標と行政の4年間の主な取組については、複数ある指標や取組の目標達成状況を踏まえて主担当課が判定した進捗度を記載している。

⑱分野の進捗度（行政）

市民実感度や指標、市民等の役割分担、行政の取組状況をもとに、行政内部において総合的に分野全体の進捗状況を判断し、審議会に諮る前に5段階（A～E）で進捗度を判定したものである。

A～Eの進捗度は分野全体の進捗状況を表したもので、概ね次のような区分である。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| A：4年後のまちが十分に実現されている | D：4年後のまちがあまり実現されていない |
| B：4年後のまちがかなり実現されている | E：4年後のまちが全く実現されていない |
| C：4年後のまちがある程度実現されている | |

⑲進捗度の理由

分野全体の進捗度を判断した理由について、主担当課が簡潔に記載したもの。

6 総合計画審議会の意見 【部会終了後に事務局で記入】

⑳行政で検証した進捗度についての意見

行政内部での検証結果と分野全体の進捗度とその理由について、検証結果や進捗度の妥当性について、審議会が出された意見。

㉑行政で検証した進捗度を変更する場合の理由

審議会が、行政内部で検証した進捗度と異なった進捗度に変更する場合に、その理由を示している。

㉒進捗度（審議会）

市民実感度や指標の達成状況、市民等の役割分担状況、行政の取組状況の結果を総合的に判断し、5段階（A～E）で進捗度を判断するもので、社会経済的状況等の外的要因も勘案したうえで、審議会において最終的な進捗度を判定しているもの。進捗度の判定に至るには、上記4つの進捗状況から各小分野ごとに検証、分析を行い、行政内部で検証した進捗度をベースに総合的に判定したものである。判定基準は進捗度（行政）と同じA～Eの5段階で判定している。

また、上欄に前年度の進捗度（審議会）も併せて表記している。

まちづくりの目標	①	3	環境にやさしく、自然と都市機能が調和した、住みやすいまち
施策の大綱	②	1	適切な土地利用の推進
基本施策	③	3	拠点整備
4年後のまち	④		広域的なにぎわいと風格のある、生駒の個性や魅力あふれる都市拠点の形成が進んでいる。
	⑤		地域の顔となり身近な生活や交流を支援する機能が集約された地域拠点の形成が進んでいる。
	⑥		学研高山地区第2工区でリニア中央新幹線新駅を見据えた新たなまちづくりの実現に向けた取り組みが進められている。

【 みほん 】

1 市民実感度

【市民満足度調査 平成29年5月実施】

⑤ 設問①	広域的なにぎわいと風格のある、生駒の個性や魅力あふれる都市拠点の形成が進んでいる。	⑥ 得点評価				⑤ 設問②	地域の顔となり身近な生活や交流を支援する機能が集約された地域拠点の形成が進んでいる。	得点評価			
		回答	件数	比率	得点			回答	件数	比率	得点
	そう思う	19	3.8%	4.4	4.4		そう思う	20	3.7%	5.6	5.6
	どちらかというと思う	75	15.0%	17.4%	13.0		どちらかというと思う	79	14.7%	22.3%	16.7
	どちらとも言えない	155	31.0%	35.9%	17.9		どちらとも言えない	144	26.8%	40.7%	20.3
	どちらかというと思わない	109	21.8%	25.2%	6.3		どちらかというと思わない	67	12.5%	18.9%	4.7
	そう思わない	74	14.8%	17.1%	0.0		そう思わない	44	8.2%	12.4%	0.0
	わからない	45	9.0%				わからない	162	30.2%		
	無回答	23	4.6%				無回答	21	3.9%		
	総数	500	100.0%				総数	537	100.0%		
	有効回答数	432		100.0%	41.7		有効回答数	354		100.0%	47.5
⑤ 設問③	学研高山地区第2工区でリニア中央新幹線新駅を見据えた新たなまちづくりの実現に向けた取り組みが進められている。										
	回答	件数	比率	得点評価							
	そう思う	20	3.7%	5.6	5.6						
	どちらかというと思う	79	14.7%	22.3	16.7						
	どちらとも言えない	144	26.8%	40.7	20.3						
	どちらかというと思わない	67	12.5%	18.9	4.7						
	そう思わない	44	8.2%	12.4	0.0						
	わからない	162	30.2%								
	無回答	21	3.9%								
	総数	537	100.0%								
	有効回答数	354		100.0%	47.5						
全設問の平均				45.5							

2 指標

No.	7 指標名	8 この指標について	9 指標の動向	
1	都市拠点である生駒駅の乗車人数の増加率(%)	現在の年間乗車人数の値を100%としたときの乗車人数の増加率。各拠点間を結ぶ公共交通の利用促進につながる、誰もが移動しやすいコンパクトなまちづくりを進めます。		
担当課	都市計画課		目指す値	実績値
			H28	H28
			103	104
			10 指標の把握方法(数値の出所)	
			近畿日本鉄道株式会社から情報提供を受けて把握	
		11 目標が未達成かつ前年度より悪化している場合の理由	<外的要因の有無: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無>	
2	地域拠点であるけいはんな線3駅の乗車人数の増加率(%)	現在の年間乗車人数の値を100%としたときの乗車人数の増加率。各拠点間を結ぶ公共交通の利用促進につながる、誰もが移動しやすいコンパクトなまちづくりを進めます。		
担当課	都市計画課		目指す値	実績値
			H28	H28
			103	105
			指標の把握方法(数値の出所)	
			近畿日本鉄道株式会社から情報提供を受けて把握	
		目標が未達成かつ前年度より悪化している場合の理由	<外的要因の有無: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無>	
3	リニア誘致サポーター登録人数[累計](人)	平成25年に募集を開始したサポーターの登録人数。生駒市にリニア駅が設置されることを望む人々が増え、新たなまちづくりについて関心を持つ人々も増えていきます。		
担当課	都市計画課		目指す値	実績値
			H28	H28
			6,600	6,500
			指標の把握方法(数値の出所)	
			年度末にサポーターの登録数(累計)を集計して把握	
		目標が未達成かつ前年度より悪化している場合の理由	<外的要因の有無: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無>	

3 市民の役割分担(市民1人でできること) 【市民満足度調査 平成29年5月実施】

12 ③1 リニア中央新幹線駅の誘致について関心をもっている。				
回答	件数	比率	13 得点評価	
十分取り組んでいる	46	8.6%	9.3%	9.3
取り組んでいる	112	20.9%	22.5%	16.9
少し取り組んでいる	183	34.1%	36.8%	18.4
あまり取り組んでいない	106	19.7%	21.3%	5.3
全く取り組んでいない	50	9.3%	10.1%	0.0
無回答	40	7.4%		
総数	537	100.0%		
有効回答数	497		100.0%	49.9

4 行政の4年間の主な取組

取組No.	14 行政の4年間の主な取組	具体的な事業	15 取組状況	16 進捗上の課題 (ある場合のみ)	担当課
①1	市民アンケートやタウンミーティングなどにより、市民の意見を聞きながらまちづくりを進めます。	市民アンケートの実施	地域拠点である学研北生駒駅中心まちづくりについて、地元権利者等の意見をワークショップで聞きながら、まちづくり計画策定に向けた取り組みを行なっている。	〇〇〇〇〇	都市計画課
		各種ワークショップの開催			都市計画課
①2	まちづくりに関し、本市の取組や情報を積極的に公表します。	ホームページ等での情報公表	学研北生駒駅中心地区のまちづくりや学研高山地区第2工区の将来のあり方などについて、広く市民に情報提供するためホームページや広報紙に掲載し公表している。		都市計画課
①3	民間開発と連携し、ゆとりある公共空間の確保や、地域の「顔」となる拠点整備を図ります。	学研北生駒駅周辺まちづくり構想策定事業	学研北生駒駅中心地区まちづくり構想を平成27年1月に策定した。平成27年度は、構想実現に向けたまちづくり計画のとりまとめを行なう会議、組織を立ち上げ、4回の会議を開催した。	〇〇〇〇〇	都市計画課
②1	市民がまちづくりに参加できる機会を設けます。	各種ワークショップ等の開催	学研北生駒駅周辺地区のまちづくりについて権利者、地元自治会等が進められており、会議の内容をホームページに掲載し、広く市民に周知している。		都市計画課
②2	地域拠点の形成に向けて、近鉄けいはんな線各駅周辺地域及び南生駒駅周辺地域において、必要な基盤整備を考えつつ、地域特性を活かした適切なまちづくりを推進します。	用途地域、地区計画等規制の指定	近鉄けいはんな線各駅周辺地区について、地区計画による規制等により、適切なまちづくりを推進している。		都市計画課
②3	学研北生駒駅周辺地域の良好なまちづくりを進めるため、まちづくり構想を定め、構想に基づき、土地利用や道路等のインフラ整備の方針を定めます。	学研北生駒駅周辺まちづくり構想策定事業	学研北生駒駅中心地区まちづくり構想を平成27年1月に策定した。平成27年度は、構想実現に向けたまちづくり計画のとりまとめを行なう会議、組織を立ち上げ、4回の会議を開催した。	〇〇〇〇〇	都市計画課
					事業計画課
②4	多様で魅力ある都市機能の集積と、まちなか居住の推進、そして、地区計画や景観法等を活用し、魅力あるまちなみの形成と、歩きたくなる環境の充実を図ります。	地区計画等規制に関する事務	けいはんな線各駅周辺地区の地区計画について、白庭台(28件)、高山学研(4件)、登美ヶ丘(1件)、高山富雄小泉線(3件)の届出を受理した。	〇〇〇〇〇	都市計画課
					みどり公園課
③1	リニア中央新幹線新駅を見据えたまちづくりの実現に向けた取組を、関係機関と連携して進めます。	リニア中央新幹線新駅(中間駅)誘致事業	高山サイエンスフェスティバルに出展し、リニアのPR活動やサポーター募集等の周知活動を行なった。サポーター登録者数 6,210人		都市計画課

5 分野全体の進捗状況

17 各項目の進捗度		分野の進捗度 (行政)	19 進捗度の理由
市民実感度	45.5	18 C	市民実感度は50点に満たないものの、〇〇〇〇により、各指標の数値は順調に推移している。また、市民の役割分担状況については、ほぼ50点となっており、一定程度取り組まれている。行政の4年間の主な取組については、各事業ごとに設定した目標水準には一定達成していること、〇〇〇〇の取組についても効果が出ていることから一定進捗していると判断しているが、〇〇〇〇の取組については、取組を進めているものの、目指す効果が表れていないことから、左のように進捗度を判断した。 分野全体としては、それぞれ設定した取組目標を概ね達成でき、〇〇〇〇の効果表れていることから、4年後のまちがある程度実現されていると判断した。
指標	一部目標値に達していない指標がある		
市民の役割分担	49.9		
行政の4年間の主な取組	一部進捗していない取組がある		

[進捗度の基準] A:4年後のまちが十分に実現されている B:4年後のまちが概ね実現されている C:4年後のまちがある程度実現されている D:4年後のまちはあまり実現されていない E:4年後のまちは全く実現されていない

6 総合計画審議会の意見

20 行政で検証した進捗度についての意見	目指す姿①の都市拠点の整備については、生駒駅前再開発事業が進み、概ね目標が達成されていると評価できる。他の地域拠点の整備はこれからの今後の整備に再開発の知識や経験を活かしてもらいたい。また、目指す姿③の高山第2工区についての進捗度評価が不十分と思われる。	前年度	C
21 行政で検証した進捗度を変更する場合の理由	生駒駅前再開発事業の進捗は評価できるが、高山第2工区については、リニア新駅誘致事業の進捗が不透明であることから、分野全体の進捗度としてはC評価と判断する。	22 進捗度(審議会)	C

部会での審議終了後に、会議での意見をまとめて記入する。